

力を合わせて暮らし守る政治取り戻す

国民民主党 代表 玉木雄一郎

今、国会を見ていてふたつの大切なことが崩れつつある。ひとつは、議会制民主主義です。議会にはさまざまな意見があってそれを寄せ合って丁寧に合意を形成していく、これが議会制民主主義だと思います。これを総理大臣自身が壊している。聞いたことに答えない。聞いてないことを一杯喋る。ときどきヤジも入る。過去にいろんな総理がいたが、総理席から質問者にヤジを飛ばす総理はいないですよ。さらに聞いてないことに答えないだけでなく、呼んでいない大臣が出て来て喋る。一番問題なのは、議論の為に必要なのは

データであり、資料であり、文書です。求めても出

さないし、隠すし、あげくの果てに文章を改ざんする。通常国会の冒頭に総理が所信表明演説で幾つかのうまくいっている数字をあげましたが、数字もいところだけ摘まみ食いしている。まともな議論など出来るはずありません。私は総理に申し上げました。「国会は安倍総理の自慢話を聞く場でなくて、今国民が直面している問題に真っ直ぐ目を据えて問題を解決する場である」と。誤魔化す。こんなことを繰り返していたのでは民主主義は崩壊してしまいます。

もう一つ問題になっているのは毎月勤労統計。私たちの賃金や所得に拘わる根本的な統計で不正が行われていた。このまま見過ごしては駄目だ。政治的圧力が働いたのではないかと言うのが、我々の主張です。

今、国民生活が崩れています。現役世代も特に高齢世帯も生活の実態は厳しい。これをしっかり正面から受け止める政治に替えていかなければ私たちの暮らしはよくなりません。

今年は4月の統一自治体選挙、7月の参議院選挙。政治決戦の年です。暮らしを守る政治を取り戻すために私たち野党は力を合わせて取組んでいきたいと思っています。今、この会場に入って来たとき熱気で溶けそうになりました。皆さん元気です。思いが強いです。退職者の皆さんの力を貸して頂きたい。



玉木代表